

平成26年度 学校法人福岡大学収支決算について

1. 消費収支においては、9億2,288万円の消費収入超過となりました。
2. 基本金組入額を20億6,300万円計上しました。

平成26年度消費収支計算書

(決算規模742億円)

(単位：千円)

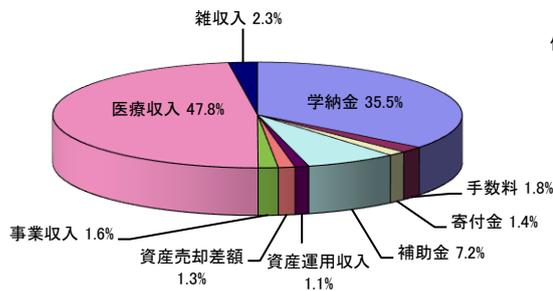
消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	26,604,603	26,385,182	219,421
手数料	1,276,201	1,365,793	△ 89,592
寄付金	885,274	1,043,639	△ 158,365
補助金	5,293,446	5,336,199	△ 42,753
資産運用収入	560,636	806,739	△ 246,103
資産売却差額	0	980,573	△ 980,573
事業収入	983,098	1,167,708	△ 184,610
医療収入	36,824,318	35,456,980	1,367,338
雑収入	1,417,485	1,690,813	△ 273,328
帰属収入合計	73,845,061	74,233,626	△ 388,565
基本金組入額合計	△ 4,072,098	△ 2,063,004	△ 2,009,094
消費収入の部合計	69,772,963	72,170,622	△ 2,397,659

(単位：千円)

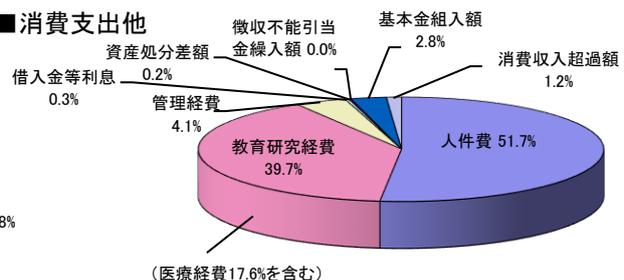
消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	39,327,721	38,384,650	943,071
(退職給与引当金繰入額)	(2,437,178)	(2,174,955)	(262,223)
教育研究経費	30,402,181	29,502,596	899,585
(減価償却額)	(6,021,767)	(5,900,715)	(121,052)
管理経費	3,148,243	3,048,544	99,699
(減価償却額)	(415,721)	(403,067)	(12,654)
借入金等利息	197,574	190,635	6,939
資産処分差額	0	113,430	△ 113,430
徴収不能引当金繰入額	0	7,884	△ 7,884
[予備費]	262,118		262,118
消費支出の部合計	73,337,837	71,247,739	2,090,098
当年度消費収入超過額	0	922,883	
当年度消費支出超過額	3,564,874	0	
前年度繰越消費支出超過額	17,286,407	14,834,036	
基本金取崩額	0	11,235	
翌年度繰越消費支出超過額	20,851,281	13,899,918	
帰属収支差額	507,224	2,985,887	△ 2,478,663

(注) [予備費]は未使用額を表し、()内の金額は使用額を示す。

■帰属収入



■消費支出他



※ 各科目の構成比率は帰属収入を100%として表示しています。

【消費収支決算の概要 (予算との比較)】 (注：↑…増加を示す ↓…減少を示す)

《消費収入の部》

- ・資産売却差額 ↑ 有価証券の償還差益
- ・医療収入 ↓ 福岡大学病院における入院および外来患者数の減少

《消費支出の部》

- ・人件費 ↓ 教職員数の差異等による減少
- ・教育研究経費 ↓ 施設関係の修繕費減少による

◎帰属収入合計は742億3,362万円となり、予算比で3億8,856万円の増加、また前年比では16億166万円の増加となりました。

◎消費支出の部合計は712億4,773万円となり、予算比で20億9,009万円の減少、また前年比では9億4,577万円の減少となりました。

【消費収入と消費支出】 帰属収入から基本金組入額を差し引いた721億7,062万円が消費収入です。この額が消費支出に充てることのできる金額となりますが、平成26年度は712億4,773万円の消費支出となり、消費収入と比較すると9億2,288万円の消費収入超過となりました。

【帰属収支差額】 帰属収入から消費支出を差し引いたものを帰属収支差額といいます。平成26年度は29億8,588万円の帰属収入超過となりました。

【帰属収支差額比率】 帰属収支差額の帰属収入に対する割合であり、この比率が高いほど自己資金は充実することになり、経営に余裕があるとみなすことができます。平成26年度は4.0%であり、前年度より3.4ポイント高くなっています。

平成26年度資金収支計算書

(決算規模1,192億円)

(単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	26,604,603	26,385,182	219,421
手数料収入	1,276,201	1,365,793	△ 89,592
寄付金収入	885,274	897,259	△ 11,985
補助金収入	5,293,446	5,336,199	△ 42,753
資産運用収入	560,636	806,739	△ 246,103
資産売却収入	0	11,141,875	△ 11,141,875
事業収入	983,098	1,167,708	△ 184,610
医療収入	36,824,318	35,456,980	1,367,338
雑収入	1,417,485	1,548,611	△ 131,126
前受金収入	5,328,751	5,451,632	△ 122,881
その他の収入	21,843,353	24,861,522	△ 3,018,169
資金収入調整勘定	△ 12,670,878	△ 12,911,366	240,488
前年度繰越支払資金	17,738,710	17,695,348	43,362
収入の部合計	106,084,997	119,203,482	△ 13,118,485

期中の有価証券等の売却収入であり、購入については資産運用支出として計上しています。

長期、短期の貸付金の回収額や特定の目的のために積み立てた資産を取り崩した金額等です。

次年度に入学予定の学生生徒等から受け入れる授業料や入学金等です。

収入として計上したが未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に受け入れている収入を差し引くことにより、資金の収入額を調整するためのものです。

(単位：千円)

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	39,092,849	38,199,395	893,454
教育研究経費支出	24,341,674	23,613,555	728,119
管理経費支出	2,732,522	2,627,203	105,319
借入金等利息支出	197,574	190,635	6,939
借入金等返済支出	533,270	533,270	0
施設関係支出	1,445,505	1,153,064	292,441
設備関係支出	2,789,414	1,968,560	820,854
資産運用支出	6,379,178	21,303,464	△ 14,924,286
その他の支出	16,170,047	19,374,459	△ 3,204,412
(174,652)			
[予備費]	265,348		265,348
資金支出調整勘定	△ 5,671,768	△ 5,324,374	△ 347,394
次年度繰越支払資金	17,809,384	15,564,251	2,245,133
支出の部合計	106,084,997	119,203,482	△ 13,118,485

土地、建物、構築物等を取得するための支出です。

より良い教育研究サービスを提供するために、資金を積み立てるための支出等です。

教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書等を取得するための支出です。

支出として計上したが未払となっているものや、前払金支払支出として前年度までに支払っている経費を差し引くことにより、資金の支出額を調整するためのものです。

(注) [予備費]は未使用額を表し、()内の金額は使用額を示す。

【資金収支決算の概要(予算との比較)】 (注：↑…増加を示す ↓…減少を示す)

《収入の部》

- ・資産売却収入 ↑ 有価証券の満期および早期償還による。
- ・医療収入 ↓ 福岡大学病院における入院および外来患者数の減少。
- ・その他の収入 ↑ 税金等の預り金の増加。

《支出の部》

- ・人件費支出 ↓ 教職員数の差異等による減少。
- ・教育研究経費支出 ↓ 施設関係の修繕費減少による。
- ・設備関係支出 ↓ 教育研究用機器備品支出の未執行による。
- ・資産運用支出 ↑ 有価証券の購入および各種特定資産への繰り入れによる。
- ・その他の支出 ↑ 税金等の預り金の増加。

【資金収支規模と次年度繰越支払資金】

- 資金収支決算の合計は1,192億348万円で、前年比5億5,688万円の財政規模拡大となっています。
- 資金収支のてん末としての次年度繰越支払資金は、155億6,425万円で、前年比21億3,109万円の減少となりました。

【平成26年度に取得した主な施設・設備】

(施設関係) (土地・建物・構築物・建設仮勘定)

1. やまなみ荘改修工事
2. 文系センター棟西側エレベーター取替工事
3. ラグビー場西側グラウンド整備工事
4. 福岡大学病院西別館屋上非常用発電機取替工事
5. 福岡大学病院西別館1、2階機械室空調機取替工事
6. 筑紫病院駐車場棟
7. 筑紫病院外構工事

(設備関係) (機械器具)

1. 医用画像管理システムおよび内視鏡管理システム
2. 全身用X線CT診断装置(第三CT)
3. 血管撮影機能付外科用X線撮影装置

貸借対照表

(決算規模2,348億円)

(単位:千円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	210,713,961	206,936,054	3,777,907
有 形 固 定 資 産	123,836,999	126,881,184	△ 3,044,185
土 地	20,263,515	20,266,869	△ 3,354
建 物	70,254,508	72,024,635	△ 1,770,127
構 築 物	4,583,319	4,576,449	6,870
教 育 研 究 用 機 器 備 品	12,491,325	13,531,455	△ 1,040,130
そ の 他 の 機 器 備 品	215,242	244,789	△ 29,547
図 書	15,964,026	15,742,167	221,859
車 輛	14,834	15,903	△ 1,069
建 設 仮 勘 定	50,230	478,917	△ 428,687
そ の 他 の 固 定 資 産	86,876,962	80,054,870	6,822,092
電 話 加 入 権 等	210,866	217,648	△ 6,782
収 益 事 業 元 入 金	817,935	805,540	12,395
貸 付 金	20,568	166,256	△ 145,688
貸 与 奨 学 金	3,385,155	3,766,378	△ 381,223
差 入 保 証 金	50,979	50,914	65
長 期 前 払 金	276	0	276
引 当 特 定 資 産	82,391,183	75,048,134	7,343,049
流 動 資 産	24,091,356	25,945,301	△ 1,853,945
現 金 預 金	15,564,251	17,695,348	△ 2,131,097
未 収 入 金	7,799,172	7,499,139	300,033
材 料	147,075	133,996	13,079
貯 蔵 品	6,285	14,031	△ 7,746
立 替 金	2,782	4,185	△ 1,403
短 期 前 払 金	532,859	573,562	△ 40,703
仮 払 金	38,932	25,040	13,892
資 産 の 部 合 計	234,805,317	232,881,355	1,923,962

校舎、寮、体育館等の建物および建物附属設備(空調等)の額のことです。

教育研究のために使用される機械設備等の額のことです。

学生生徒等に貸与している奨学金の額のことです。

将来の特定の目的のために使用する資産のことです。

現金およびすぐに引き出すことのできる預貯金の額のことです。

決算日(3月31日)における補助金等の未収額の額のことです。

【貸借対照表の概要(前年度末との比較)】 (注: ↑…増加を示す ↓…減少を示す)	
資産の部 資産総額は19億2,396万円の増加。 <ul style="list-style-type: none"> ● 純資産(資産総額から負債総額を差し引いたもの)は、1,955億809万円で、29億8,588万円の増加。 ● 資産総額に占める純資産(自己資金)の割合は83.3%で、0.6ポイント増加。 	基本金の部 基本金総額は20億5,176万円の増加。 <ul style="list-style-type: none"> ● 第1号基本金 ↑ 筑紫病院駐車場棟、やまなみ荘改修工事、全身用X線CT診断装置(第三CT)の購入等に係る組入れによる。 ● 第2号基本金 ↓ 第1号基本金への振替による。
負債の部 負債総額は10億6,192万円の減少。 <ul style="list-style-type: none"> ● 長期借入金 ↓ 借入金の返済のため。 ● 短期未払金 ↓ 設備関係支出の未払の減少。 	消費収支差額の部 翌年度繰越消費支出超過額を138億9,991万円計上。

【学校法人福岡大学監事からの報告および要望】

- 入学志願者と就職率について
特に入学志願者を確保するために多様な施策を実行し、また、新しいチャネルを活用した情報発信を積極的に実行することが要望されています。
- 財政状況について
戦略的な投資計画の策定と併せて、具体的な増収策と効果的な経費削減策が要望されています。
- 福岡大学病院と筑紫病院の業績推移について
本学の健全で持続的な発展には、きめ細かな収益改善策による両病院の収益性向上が必要であると要望されています。

「当大学の健全で持続的な成長」を実現するため、「ガバナンス体制」および「コンプライアンス経営」を経営の「車の両輪」として、PDCA(Plan・Do・Check・Action)サイクルをスピード感をもって、不断に、かつ、効果的に機能させていくことを重ねて要望されています。

【学校法人会計の豆知識】

- ・学校法人は営利の追求を目的とする一般企業とは異なり、教育研究活動を目的とする公共性の高い法人です。
- ・学校法人が作成する計算書類は、主として以下の3つです。

1. 資金収支計算書
 - ① 企業会計の「キャッシュフロー計算書」に似た性格を持つ計算書です。
 - ② 家庭でいえば家計簿のように現金預金の出入りを集計した計算書です。
2. 消費収支計算書
 - ① 企業会計の「損益計算書」に似た性格を持つ計算書であり、採算の取れた経営を行っているか、経営上赤字になっていないかを見る計算書です。
 - ② 企業会計の「損益計算書」では計上対象とならない資本的支出が基本金組入額として計上されています。
3. 貸借対照表
 - ① 年度末における資産・負債・自己資金(基本金、消費収支差額)を表します。
 - ② 財政状態の健全性、必要資産の保有状況、今までの学校法人の活動を行ってきた積み重ねの結果を表します。

(単位：千円)

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	27,269,360	27,681,730	△ 412,370
長期借入金	8,258,700	8,826,930	△ 568,230
長期未払金	579,689	609,085	△ 29,396
退職給与引当金	18,430,971	18,245,715	185,256
流動負債	12,027,858	12,677,413	△ 649,555
短期借入金	568,230	533,270	34,960
短期未払金	4,795,374	5,401,281	△ 605,907
前受金	5,451,632	5,556,751	△ 105,119
預り金	1,212,342	1,185,913	26,429
仮受金	280	198	82
負債の部合計	39,297,218	40,359,143	△ 1,061,925

返済期限が1年を超えて到来する借入金のことです。

返済期限が1年以内に到来する借入金のことです。

26年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額のことです。

翌年度に入学する学生生徒等から受け入れた授業料や入学金等のことです。

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	186,627,775	184,337,771	2,290,004
第2号基本金	15,317,363	15,734,598	△ 417,235
第3号基本金	2,353,879	2,353,879	0
第4号基本金	5,109,000	4,930,000	179,000
基本金の部合計	209,408,017	207,356,248	2,051,769

- ・第1号(施設・設備取得)自己資金で購入した施設設備費の累計額。
- ・第2号(計画組入)将来の施設設備取得のための積立金。
- ・第3号(各種基金)奨学基金等として保持している金額。
- ・第4号(運転資金)恒常的に保持すべき資金の額(1ヵ月分の運転資金)。

財産的な基盤となる額のことです。福岡大学が安定的かつ永続的に存続していくために必要な金額です。

消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	13,899,918	14,834,036	△ 934,118
消費収支差額の部合計	△ 13,899,918	△ 14,834,036	934,118

資産から負債と基本金を差し引いた額です。プラスは収入超過(累積黒字)を、マイナスは支出超過(累積赤字)を表します。

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計	234,805,317	232,881,355	1,923,962

【福岡大学の財政状態】

貸借対照表

資産の部		負債の部、基本金の部、消費収支差額の部	
固定資産 89.7	有形固定資産 52.7	借入金等 6.6	負債 16.7
		退職給与引当金 7.8	
	前受金 2.3		
流動資産 10.3	その他の固定資産 37.0	第1号 79.5	基本金 89.2
		第2号 6.5	
		第3号 1.0	
		第4号 2.2	
	消費収支差額 △5.9		

※平成27年3月31日現在の財政状態を分かりやすく見るために、それぞれを構成比で表しました。

※資産＝負債＋基本金＋消費収支差額

《福岡大学の財政状態を次の2つの視点から評価》

Q1. 現有資産が自己資金によるものなのか負債によるものなのか。

A1. 自己資金(基本金+消費収支差額)の構成を指数化すると83.3です。この指数は高いほど財政的に安定していると言われていました。(評価◎)

Q2. 必要な資産を現時点で保有しているのかいないのか。

A2. 消費収支差額はマイナスであるが、基本金の保有は良好で、将来の施設設備取得に備えての資金も6.5(第2号)含まれています。(評価◎)

※日本私立学校振興・共済事業団発行の「今日の私学財政」を基に、医歯他複数学部大学法人平均との比較で評価を行いました。医歯他複数学部大学法人平均と比較して、財政状態が良い場合は◎、同程度の場合は△、悪い場合は×と表記しています。